

平成31年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	特定非営利活動法人 劇場創造ネットワーク	
施設名	杉並区立杉並芸術会館「座・高円寺」	
助成対象活動名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	28,439	(千円)
公演事業	23,415	(千円)
人材養成事業	1,277	(千円)
普及啓発事業	3,747	(千円)

1. 事業概要

(1) 平成31年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
				目標値	実績値
1	世界をみよう！	7/13~8/1 座・高円寺、茅野市民館	『ピン・ポン』(日本) 構成・演出：佐藤信 演出・美術：tupera tupera 演出・振付：竹屋啓子 出演：久保恒雄、光田圭亮、公文美佳、音楽演奏：磯田収 『サラバンド』(フランス) ノエミ・ブタン&ヨルグ・ミュレール 『いま、飛んでる?』(フランス) ラ・カンパニー・コティディエンヌ 『箱とジョージさん』(デンマーク) シアター・リフレクション	目標値	1,400
				実績値	1,818
2	劇場へいこう！	9/1~10/15 座・高円寺、杉並区内小学校	『ピノッキオ』原作：カルロ・コッローディ 脚本・演出：テレーサ・ルドヴィコ 美術：ルカ・ルツツア 照明：齋藤茂男 音響：島猛 翻訳・通訳 石川若枝 出演：高田恵篤、KONTA、辻田暁、森ようこ、高橋優太、田中真之、黒須育海 『フランドン農学校の豚～注文の多いおまけ付き』原作：宮沢賢治 上演台本：佃典彦 演出：西沢栄治 出演：宮島岳史、塚本淳也、山田宗一郎、小玉雄大、安川里奈、柴田美波	目標値	5,200
				実績値	5,604
3	男たちの中で	10/18~10/27 座・高円寺	『男たちの中で』原作：エドワード・ボンド 翻訳：堀切克洋、ドラマターグ：ダヴィッド・テュアイヨン 上演台本・演出：佐藤信、照明：齋藤茂男 音響：島猛 舞台監督：佐藤明子 出演：植本純米、下総源太朗、千葉哲也、真那胡敬二、松田慎也、龍昇	目標値	1,500
				実績値	1,214
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

(2) 平成31年度実施事業一覧【人材養成事業】

(3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
助成対象事業 公演事業：「世界をみよう！」「劇場へいこう！」「男たちの中で」 人材育成事業：「座・高円寺ダンスアワードⅡ」 普及啓発事業：「遊ぼうよ！」
杉並区立杉並芸術館「座・高円寺」は、「杉並区基本構想」で掲げるビジョンのうち、1) 地域における多様なつながりの中で心豊かで自立心を持った「次代を担う人」を育むまちを築く 2) 地域の特性を活かし、将来を見据えた産業の振興や経済活動の活性化 3) 誰もが文化・芸術や生涯学習・スポーツに親しむことのできる環境の整備 4) 文化芸術の振興を図るとともに、多様な文化が共存・発展する共生社会を築く の4点に基づき、人にぎわいの絶えない「暮らしとともににある劇場」として、1) 舞台芸術をつくる 2) 観客とつながる 3) 町とつながる 4) 人とつながる の4つを施策とし、舞台芸術を中心に据えた事業を展開しています。 「要望書」及び「実績報告書」に記載している通り、当該事業は、それぞれ上記の施策に基づき、適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業を進めることができました。特に齟齬が生じた箇所はありません。
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。 助成対象事業 公演事業：「世界をみよう！」「劇場へいこう！」「男たちの中で」 人材育成事業：「座・高円寺ダンスアワードⅡ」 普及啓発事業：「遊ぼうよ！」
「実績報告書」に記載している通り、「世界をみよう！」では、近郊の親子劇場・子ども劇場と連携し、未就学の子どもを持つ家庭が親子で一緒に舞台作品を見る機会の提供、「劇場へいこう！」では、子どもとおとなが一緒に楽しめる質の高い舞台作品の創造及び鑑賞の機会の提供と、教育委員会と連携し小学校4年生全員が鑑賞する機会の提供、「男たちの中で」では、世界的に重要な作家の日本初演となる作品の上演、「座・高円寺ダンスアワードⅡ」では、大学と連携し、大学の教育現場と創作の現場をつなぐ仕組みづくりと、台湾と日本の学生の交流の場の提供、「遊ぼうよ！」では、地域の子どもたちが年齢や学校を超えて交流し創造力をはぐくむ場の提供、を行い、劇場が、年間を通して、学校と家庭と地域をつなぐ役割を果たしました。また、助成により参加費やチケット料金を安価（または無料）に抑えることで、特に子育て中の家庭や学生の経済的な負担を軽減することができました。以上のことにより、助成に値する文化的、社会的、経済的意義を継続して認められると考えます。

(2) 有効性

自己評価
目標を達成したか。
助成対象事業
公演事業：「世界をみよう！」「劇場へいこう！」「男たちの中で」
人材育成事業：「座・高円寺ダンスアワードⅡ」
普及啓発事業：「遊ぼうよ！」
「実績報告書」の「目標及び指標」に記載してある目標について、定数と定量に分けて分析してみると、定数目標として掲げた全 9 項目のうち、「達成した」4 項目 (44%)、「もう一息」1 項目 (11%)、「達成しなかった」4 項目 (44%)、定量目標として掲げた全 12 項目のうち、「達成した」12 項目 (100%)、「もう一息」0 項目 (0%)、「達成しなかった」0 項目 (0%) で、全体的には「達成した」が 76% で、概ね目標を達成したといえますが、定数の目標に届かなかった項目については、再度検討する必要があると考えます。

(3) 効率性

自己評価
アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。 アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。
助成対象事業 公演事業：「世界をみよう！」「劇場へいこう！」「男たちの中で」 人材育成事業：「座・高円寺ダンスアワードⅡ」 普及啓発事業：「遊ぼうよ！」
上記の全ての事業において、交付申請時より事業期間の変更はなく、計画通りに進みました。また、事業期間は、事業の内容や規模と照らし合わせて、適切であったと考えます。 助成対象事業費の変更率は、「要望時」に対しても、「交付申請時」に対しても 20%を超えることはなく、概ね計画通りに進んだと考えます。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

助成対象事業

公演事業：「世界をみよう！」「劇場へいこう！」「男たちの中で」

人材育成事業：「座・高円寺ダンスアワードⅡ」

普及啓発事業：「遊ぼうよ！」

○劇場・音楽堂等を象徴する人物の存在

芸術監督が質的責任、技術監督が技術的な責任、館長が経済的責任をとる体制のもと、制作・広報・技術の各分野の専門スタッフが緊密な連携を取りながら最大限の能力を発揮し、アーチストと来場者に対して誠実に事業を行うことで、事業を円滑に運営することができました。

○提携団体の存在

設置者である杉並区や杉並区教育委員会をはじめとし、地域の団体（高円寺商店街連合会、他）、近隣の子ども関係の団体（新宿こども劇場、目黒子ども劇場、他）や、学校（保育園、幼稚園、子供園、小学校、中学校、高等学校、大学、専門学校）、地方の劇場（茅野市民館、茅ヶ崎市民文化会館、他）や、海外の団体（アンスティチュ・フランス、国立台湾芸術大学、イタリア文化会館、他）などさまざまな分野の団体から、事業の周知、経済的支援、間接的支援など多大な協力をいただき、多くの地域のみなさんに足を運んでもらうことができました。

○創造活動に関わる建物設備等

「世界をみよう！」の現代サーカスの演目では、観客が舞台の周りを囲む円形舞台を組んだり、「みんなのリトル高円寺」では、ホール全体を大きな平土間の空間にして、子どもたちがのびのびと参加できる空間をつくるなど、事業ごとにその事業に相応しい舞台と客席の関係を自由に変えることができ、創り手と観客（参加者）、双方の想像力をかきたて豊かな時間を創出する「座・高円寺Ⅰ」の特色を存分に生かした事業を行うことができました。また、観客と親密な空間を必要とする乳幼児を対象とした演目（「世界をみよう！」）は、小さな平土間の空間（阿波おどりホール）で上演するなど、建物全体の機能を活用できました。

○事業の企画内容、芸術性、特徴、工夫点等

翻訳初演、創作初演の新作『男たちの中で』は、作者エドワード・ボンドの研究者であるダヴィッド・テュアイヨンをドラマトウルグとして招き事前に丁寧なテキスト解釈の時間をとることで、質の高い翻訳台本を作成することができました。植本純米、千葉哲也など実力派の俳優陣とつくりあげた本作品は、2019年 AICT（国際演劇評論家協会）会員アンケート（シアターアーツ 2020 春号）において、ベスト舞台に選んだ評論家がおり、作品づくりのていねいなプロセスが実を結んだものと考えます。また、上演をしていない時間に舞台を無料公開し、舞台美術をひとつのインсталレーションの作品として見てもらうという新たな試みを行いました。

自己評価
地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。
<p>助成対象事業</p> <p>公演事業：「世界をみよう！」「劇場へいこう！」「男たちの中で」</p> <p>人材育成事業：「座・高円寺ダンスアワードⅡ」</p> <p>普及啓発事業：「遊ぼうよ！」</p>
<p>○ステークホルダーの期待（要求）や地域のニーズに応えているか</p> <p>「劇場へいこう！」では、子どもとおとなが一緒に楽しめる質の高い舞台作品の創造（『ピノッキオ』『フランドン農学校の豚～注文の多いオマケ付き』）及び鑑賞の機会の提供と、小学校4年生全員が鑑賞する機会の提供を行いました。「実績報告書」に記載している通り、観客からは「とても素晴らしいクオリティの高さにおどろき感動しました」「幼児二人を連れて見ましたが、この世界観を体験できてうれしいです」「子供が学校でみてきて「とても楽しかったからまたみたい！」と熱望して見にきました。魅力的なキャストのみなさんや舞台装置の工夫した使い方など大人もとても楽しめました」といった感想が寄せられ、作品の質の高さと、それを通じて子どもたちとたくさんの出会いと感動を分かち合うことができました。</p> <p>また、小学校4年生の団体鑑賞においては、引率の先生向けの資料を作成し事前に配布したり、鑑賞の後には子どもたちから感想を聞いたり質問に答えたりする交流会、舞台の裏側を体験するバックステージ見学、出演者やスタッフが学校へ出向き子どもたちとワークショップを行うなど、鑑賞前から鑑賞後にかけて、先生方と細やかな連携をとることによって、劇場での観劇体験をより濃密なものとする工夫を重ねました。先生からは「質の高い演劇行事として観られること、チケットを切ってもらう体験など、劇場に対する興味を高められること、とてもよい経験を子どもたちはさせてもらっています。是非今後も継続をしてほしいと思います」「学校で取り組む命の教育に通じる部分が多く、とてもよかったです」「歌あり、ダンスあり、役者や場面の展開もあり、子どもたちがとてもひきつけられていた」といった意見が寄せられ、地道な活動ながらも地域の文化芸術の発展につながる取り組みと考えます。</p> <p>乳幼児の子どもたちが家族で楽しめる、小さな舞台作品を集めたフェスティバル「世界をみよう！」では、座・高円寺の観客からは「子どもに間近で見て感じる機会を有難うございます。是非来年も、そして定期的な公演を宜しくお願いしたいです」という声が、また、座・高円寺の後に上演を行った茅野市民館の担当者より「今回の公演にご来場されたお客様ひとりひとりの皆様にとって、この作品から得た刺激や楽しさが、それぞれの感性に響く経験になったらば、こんなに素晴らしいことはないと思っております。市民館としても、今回の公演のような上質な作品を地域の中で継続的にお届けし、「市民一人ひとりが主人公になれる場」として、今後も活動していくたいと思っております」というコメントが寄せられるなど、長い距離を移動することが困難な小さな子どものいる家族の、地域の劇場で毎年子どもと一緒に舞台作品を観て、喜びや感動を共にできる場所に対するニーズに応えられたと思いますが、これからも本活動を続けていく必然性を感じます。</p>

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

助成対象事業

公演事業：「世界をみよう！」「劇場へいこう！」「男たちの中で」

人材育成事業：「座・高円寺ダンスアワードⅡ」

普及啓発事業：「遊ぼうよ！」

○人材の育成

座・高円寺では、2年制の養成機関「劇場創造アカデミー」を通して、専門的知識を身につけるとともに、広く公共に向けて力を発揮できる人材の育成を行っています。当該事業でも「劇場創造アカデミー」の現役生20人がインターンとして参加、また、修了生をスタッフとして雇用するなど、彼らに経験の場を提供することで、組織の活動が継続するための基盤づくりを行っています。

○教育機関とのネットワークの形成

「実績報告書」に記載している通り、各事業を通じて、保育園から大学まで、さまざまな教育機関と連携を図ることができました。教育機関との持続的な連携は不可欠だと考えます。

○国内の劇場・音楽堂等とのネットワークの形成

茅野市民館（長野）、茅ヶ崎文化会館（神奈川）、あかがねミュージアム（愛媛）、高知県立美術館（高知）などと連携して事業をさらに拡大することができました。今後も他地域の劇場・音楽堂等との連携を深めていきたいと考えます。

○財源確保の取り組み

事業内容の充実と安定的な運営のため、全体の約三分の一を占める指定管理料に加え、地方公演の実施、助成金、補助金、協賛金（公、民、団体、個人）合計29件の獲得に努めました。今後の劇場の活性化と地域コミュニティの継続的な発展は、ひいては全体への発展と活力へつながるのであり、財源確保の自助努力に加え、国からの継続的な支援が必要だと考えます。